

第1625号

6

2020年

ISSN 0039-4866

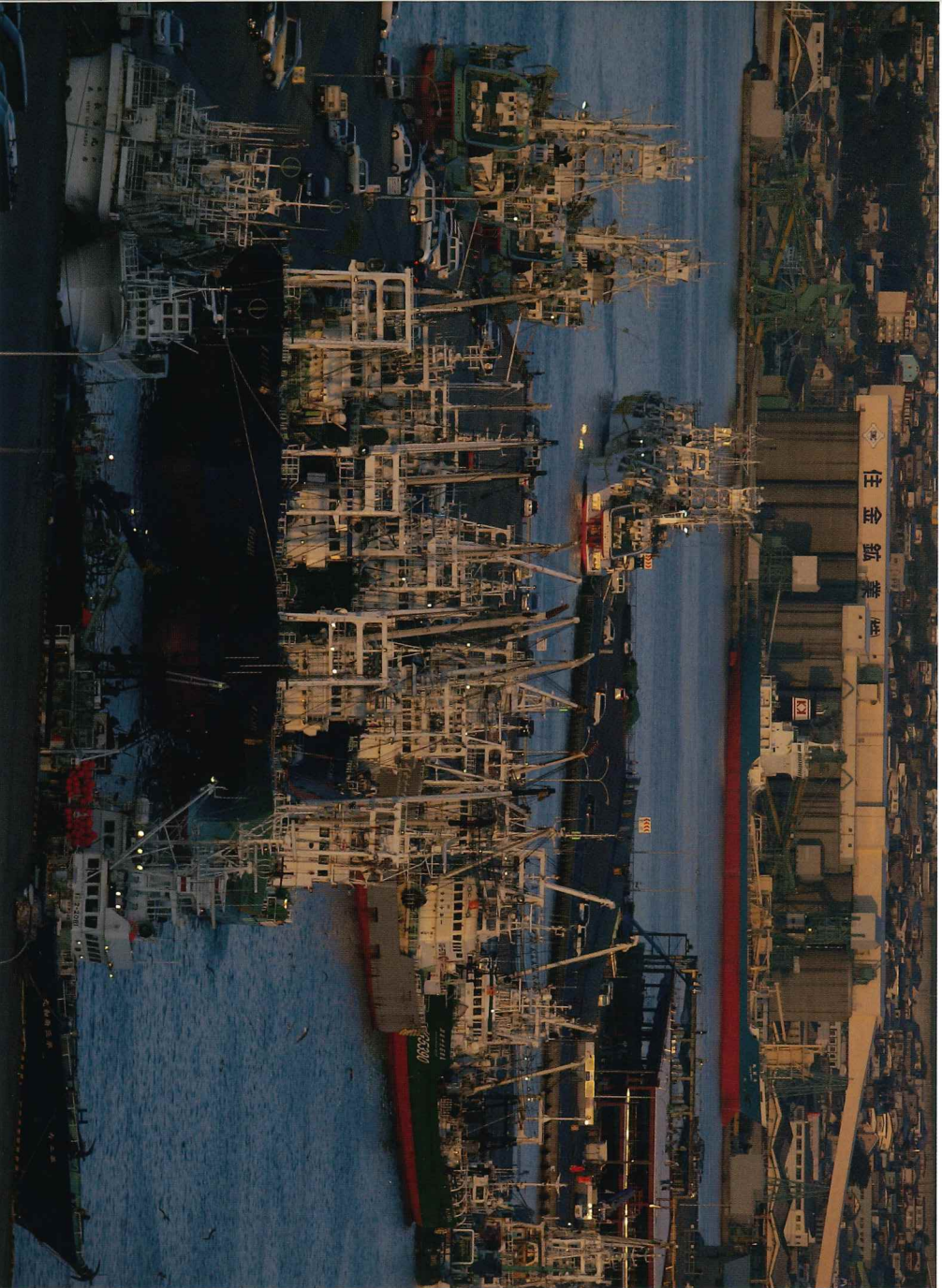
水産総合月刊誌

明治25年9月26日第三種郵便物認可 令和2年5月25日印刷
令和2年6月1日発行 (毎月1回1日発行 第1625号)

水産界

◆ 震災から9年

◆ 遠洋漁業の課題と展望



八戸港に停泊するイカ釣り漁船

めていけたらと願っています。

【輸出拡大について】

我が国政府は日本の農林水産品の輸出に注力しています。これまでもよく輸出に関する相談を受けました。

前職在職中、JF全漁連がシンガポールに開設していたアンテナショップ・WADATSUMI(わだつみ)で、冷凍寿司(日本で職人が握ったままの寿司を凍眠凍結し現地で解凍し提供)、冷凍魚(浜先で凍眠冷凍した魚を現地で解凍して刺身、握り寿司で提供)による試食付きのセミナーに参加させていただきました。大変貴重な体験をさせていただきました感謝しております。

またJICAのODA案件化調査事業でベトナムにおいて凍眠技術導入可能性を調査しました。「(ベトナム国液冷式の急速冷凍装置による農産物の高付加価値化と食品産業育成に関する案件化調査)(番号:国内:CR(10)17-066)本調査事業の直接の対象は果物でしたが、ベトナムの市場と水産業についても知見を得られたのは貴重でした。

その後、経産省の「質の高いインフラの海外展開に向けた事業実施可能性調査事業」であるベトナム・ダナンのトクアン港コールドチェーンシステム整備事業の調査団の一員にも加わりました。

重電メーカーで先進国、途上国と数多くの国を回ってきた経験と、セミナーや調査事業で得た知見を、水産事業者の輸出事業のお役



ワダツミセミナーに出品した凍眠凍結品。現地で解凍し刺身に。ブリ(宿毛漁協)と寛八(垂水漁協)

に立てていただけたら、と思います。

来年には大日本水産会主催のシーフードショーに、共に商品開発に取り組んでいる各地の凍眠活用事業者の皆さんとご一緒に出展して、内外市場を開拓したいと考えています。

【終わりに】

本稿では、水産の素人がなぜ故郷に帰って冷凍を活用した水産イノベーションに取り組むことになったか、その経緯と志(のようなもの)について述べさせていただきました。記述において或いは気を悪くされた方がいらっしゃるかもしれません。その点はお詫びします。

いま水産界、いな我が国全体が大きな転換点に立っています。武漢発新型肺炎(COVID-19)は、すでに水産界に大きなマイナスをもたらしています。まずは各種の支援事業で支えながらも、やはり新機軸にも挑戦していくことが必要です。

飲食店は真っ先に水産品の仕入れを減らしました。劣化が早いからです。こういうときに、解凍後も生鮮とほぼ見分けのつかない冷凍があることがもつと知られていて、そういう商品がもっと市場に出ていたら、と思わずにはいられません。

諸先輩各位のご教導を得て、また志を同じくする方々との協働により、「儲かる水産」の実現に少しでも寄与出来たら、と願います。

※次号では、凍眠を使って新しい商品開発に取り組んでいる具体例をご紹介します。



経産省高品質インフラ輸出調査。ダナン市関係部局での協議。左手前が筆者。

「ウミドリる」で心から笑顔な"stay home"を!!

株式会社SEOUL FOOD JAPAN 代表取締役
ツナグ!芝公園-SDGs村-実行委員長 武田 佳代

約2年前、東京2020期間中に、芝公園にて文化・環境イベントを開催するにあたり、とりわけ日本の農林水産分野を世界中の人に発信したい、大好きな魚食と海を芝公園につなぎたいという理由で、大日本水産会の平井漁政部長代理に相談に乗っていただいた。芝公園から魚食と海の素晴らしさを私のような素人でも伝えられないか。私には熱い想いのみしかなく、水産分野は全くの無知であったため、「基本のき」から教えていただいた。昨年はシーフードショーにまでご招待いただき、今ではマルハニチロ伊藤滋会長にまで、励ましをいただけるようになった。

今回は、自宅待機中の子どもたちに向けて、オンライン上で教科と海を学ぶ学習ドリル「ウミドリる」の無料配信スタートについてご紹介したい。

"stay home"-コロナウイルス禍により、親子で料理する機会が増え、一緒に食事のメニューを考えたり、今までよりも栄養面を気にするようになったことで、家庭での魚食が増え、スーパーの魚コーナーが品薄になっていた。また、このタイミングで、スーパーやドラッグストアのビニール袋が有料化したため、マイバッグを持参している人が目立つようになってきた。このように、魚食の増加、ビニール袋の使用減少が、海に囲まれている日本の環境を守ることにつながる。環境を守ることが、海の生き物を守ることにつながり、私達人間の食生活が守られるのであれば、この苦境も、環境を見直す時機ではないかと感じている。そうポジティブに捉えないと、誰も想像することのなかったこの日常はあまり

にもやりきれない。

「ウミドリる」はそんな沈んだ気分を一掃する楽しい内容になっている。「おうちで海ごはん」だけでなく、「うみダンス」で、心から笑顔なstay homeを過ごそう。またいつか大好きな海が見れる日を楽しみに!

「ウミドリる」は、学校で学ぶ国語、算数、理科や社会と海を関連づけているので、大人にも勉強になりますよ。

元文科省視学官の田村学國學院大学教授をはじめ、有志の小学校教諭や進学塾の講師が監修。

①14日間楽しく取り組める構成やデザイン
②教科の内容と共に、海についても学べる問題選定

③地球や自然環境、海に興味や関心が広がる内容の学習ドリルを開発

※小学4年生~6年生のレベルに対応

他にもYouTubeやSNS等を使ってテレビ局のアナウンサーやタレント等がリレー形式で「レッツ!うみダンス」を投稿していきます。

ぜひ、ダウンロードして親子でチャレンジしてみてくださいね。

<https://uminohi.jp/stayhomewiththesea/index.html>

